

異常巻アンモナイト類の分類学的研究

～バラバラ化石がもたらした 130 年の謎～

自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ

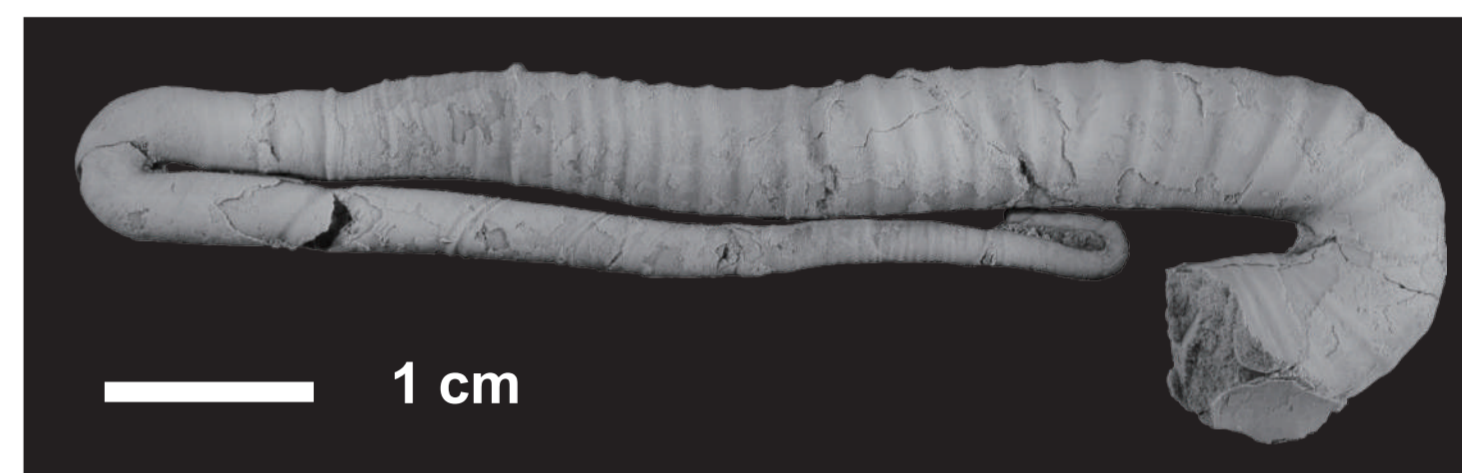
生野 賢司



私は、「異常巻アンモナイト」と呼ばれる変わった巻き方の殻をもつアンモナイトについて研究しています。特に注目しているのは、長い棒が折りたたまれたような形の殻をもつ、白亜紀の「ポリプティコセラス」(*Polyptychoceras*) です。

ポリプティコセラスの化石はふつう、殻が破片化して産出するため、多くの種が断片的な標本に基づいて分類されています。1890年代に主な種が記載された後、より多くの部分が保存された化石が見つかり、「種」を分けすぎている可能性が指摘されてきました。例えば、種の分類で重視されてきた殻表面の装飾（凹凸）や断面形状といった特徴が、成長に伴って著しく変化する種類が存在します。

現在私は、ポリプティコセラスが見つかる地層を調査し、化石の産出位置を詳しく記録しながら、状態の良い標本を集めて観察しています。これにより、様々な形の違いが種による違いなのか、成長段階による違いなのか、個体差なのか、時代による違いなのか、地域差のかなどを明らかにすることを目指しています。



個体のほぼ全体が保存されたポリプティコセラスの標本。殻がトロンボーンのような形をしています。



ポリプティコセラスの部分化石。調査で見つかる化石の大半はこのような破片のため、上の写真のような標本は貴重です。